

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日:2019年2月22日

責任者	教育学研究科委員長	作成部局	教育学研究科
-----	-----------	------	--------

A-1	教育学研究科の理念	変更の有無	
	<p>教育学研究科は、関西学院大学の理念であるキリスト教主義に基づく人格の陶冶を踏まえ、「教育とは何か」「人間とは何か」「共生とは何か」を根源的に問い続けながら、乳幼児期、児童期、青年期の人間形成上の問題を、家庭、地域、学校など広く社会全般の人間関係、個々のライフサイクル相互の影響関係を全体的に視野に入れて、解決に導くことができるような教育と研究、さらに社会貢献に繋げていける大学院教育を行うことを理念としている。</p>	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>	
A-2	教育学研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)	教育学研究科の目的(Webサイト上)	
	<p>今日の価値観が多様で不確実な社会状況においては、人々が互いのライフ・ミッションの実現へ向けて「共生」できるインクルーシブな社会形成をめざしつつ、意味豊かに世代が継承されていくための普遍的な営み(=要:かなめ)である保育・教育に、世界市民の一員としての使命を自覚した研究者と教育者が求められている。</p> <p>教育学研究科は、このような認識のもと、関西学院のキリスト教主義に基づいて、人間一人ひとりの(いのち)が、唯一無二の贈与であることへの畏敬をもとに「子ども理解」を深め、「教育とは何か」「人間とは何か」「共生とは何か」を根源的に問い続けながら、広く深い教養としなやかな批判意識をもって、現代の複雑で困難な諸問題、生涯にわたる人間形成上の諸問題に向き合う「研究者」の養成と、その専門性によって奉仕的なリーダーシップを発揮することができるような研究マインドをもった「教育者」の養成を行うことを目的としている。その際、家庭、地域、学校など広く社会全般の人間関係、異なる世代間の影響関係を全体的に視野に入れ、社会貢献に繋がるような研究を行うことを重視する。</p> <p>また、以上を実現するために、教育研究の基礎をしっかりと学び取ると同時に、本学院の理想である「学びと探究の共同体」の実現を念頭におき、大学院生相互の学び合いを活性化し、研究科における多様な学びを有機的に連動させて、各自の研究に活かすことを奨励する。</p>	<p>教育学研究科は、関西学院大学の理念であるキリスト教主義に基づく人格の陶冶を踏まえ、「教育とは何か」「人間とは何か」「共生とは何か」を根源的に問い続けながら、乳幼児期、児童期、青年期の人間形成上の問題を、家庭、地域、学校など広く社会全般の人間関係、個々のライフサイクル相互の影響関係を全体的に視野に入れて、解決に導くことができるような教育と研究、さらに社会貢献に繋げていける大学院教育を行うことを教育理念としている。</p>	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
	めざす学生像	変更の有無	
	<p>「研究者養成コース」では、広く深い教養と学識、しなやかな批判意識をもって、現代の複雑で困難な教育環境や人間形成上の問題に向き合い、それを学問的に探究し論理的に表現できる教育学・保育学研究者の育成をめざす。また、「高度教育コース」では、同様の教養と学識、そしてしなやかな批判意識をもって奉仕的なリーダーシップを発揮することのできるような研究マインドを有する高度な実践者の育成をめざす。</p>	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>	
	学位授与方針(ディプロマ・ポリシー;DP)	変更の有無	
	<p>前期課程</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学研究科博士課程前期課程に所定の年限在学し、所定の単位を修得し、修士論文の審査に合格した者。 2. それぞれの学問的研鑽によって、卓越した研究者、保育者、教育者として社会に貢献できる資質を培った者。 3. 意味豊かに世代継承していくための普遍的な営み(=要:かなめ)としての保育・教育に、世界市民の一員としての使命(ミッション)を自覚している者。 4. 広く深い教養と学識、しなやかな批判精神をもって、現代の複雑で困難な教育環境や人間形成上の問題に向き合い、それを学問的に探究し、論理的に表現できる能力を培った者。 5. 教育学的専門性によって深い人間理解と実践的・臨床的賢慮を磨き、奉仕的なリーダーシップを発揮する素地を培った者。 <p>後期課程</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学研究科博士課程後期課程に所定の年限在学し、所定の単位を修得し、博士論文審査に合格した者。 2. 自立した研究者として当該分野の中で活躍していく能力および学識が認められる者。 3. 意味豊かに世代継承していくための普遍的な営み(=要:かなめ)としての保育・教育に、世界市民の一員としての使命(ミッション)を自覚している者。 4. 広く深い教養と学識、しなやかな批判精神をもって、現代の複雑で困難な教育環境や人間形成上の問題に向き合い、それを学問的に探究し、論理的に表現できる高度な能力を有する者。 5. 教育学的専門性によって深い人間理解と実践的・臨床的賢慮を磨き、奉仕的なリーダーシップを発揮する素地を有する者。 	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>	

2018年度 自己点検・評価【教育学研究科】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日:2019年2月22日

責任者	教育学研究科委員長	作成部局	教育学研究科
-----	-----------	------	--------

A-1.「理念」、A-2.「目的」「めざす学生像」「学位授与方針」に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	「教育学研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」は、「A-1. 教育学研究科の理念」に沿い、めざす方向性を適切に表現しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	「教育学研究科の目的(Web サイト上)」は、A-2「教育学研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」に沿った内容であり、社会に対して分かりやすい表現になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	「めざす学生像」と「学位授与方針」は、A-2「教育学研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」、「教育学研究科の目的(Web サイト上)」と整合性が取れ、目的の実現に向けて相応しい内容となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学位授与方針は、学位授与にあたり、学位授与基準および当該学位に相応しい学習成果を明確に示しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認5】	学位授与方針に基づく学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認6】	目的、「めざす学生像」、「学位授与方針」は周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	教育学研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き(どこで)	大学院問題検討委員会での検討を経て、学部長室会での協議の後、随時教育学研究科委員会において決裁・承認。
	決定・判断時期(いつ)	毎年3月
	検証エビデンス	研究科委員会議事録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2018年3月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法(どのように)	大学院問題検討委員会での検討を経て、学部長室会での協議の後、随時教育学研究科委員会において決裁。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。
	判断根拠	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他()
	判断根拠	研究科委員会議事録
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()	

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ～検証状況の確認～

提出日:2019年2月22日

責任者	教育学研究科委員長	作成部局	教育学研究科
-----	-----------	------	--------

A-3	教育研究目標	変更の有無
	<p>(タイトル) 「子ども理解」をもとに、人間形成上の諸問題に向き合う教育と研究を推進する。</p> <p>目標1 (狙い・内容) 「教育とは何か」「人間とは何か」「共生とは何か」を根源的に問いながら、生涯にわたる人間形成上の諸問題を解決して導く研究と教育を行う。</p>	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
	<p>(タイトル) 現状の教育現場や教育環境上の問題を学問的に探究し論理的に表現できる研究者の育成を目標とする。</p> <p>目標2 (狙い・内容) 前期課程「研究者養成コース」では現代の複雑で困難な教育環境や人間形成上の問題に向き合い、それを学問的に探究し論理的に表現できる教育学・保育学研究者の養成を目的としたコースワークを行い、後期課程への進学につなげる。</p>	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
	<p>(タイトル) 奉仕的なリーダーシップを発揮できる高度な教育実践者の育成を目標とする。</p> <p>目標3 (狙い・内容) 前期課程「高度教育コース」では、奉仕的なリーダーシップを発揮することのできるような研究マインドを有する高度な実践者の育成を目的としたコースワークを行う。</p>	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>

A-3.「教育研究目標」に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	「教育研究目標」は、A-2「目的」、「めざす学生像」の実現に向けて、相応しい内容であるか、適切な表現であるか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	「教育研究目標」は、教育の質向上に向けた意欲的な内容になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	「教育研究目標」は、周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	教育学研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き(どこで)	大学院問題検討委員会での検討を経て、学部長室会での協議の後、随時教育学研究科委員会において決裁。
	決定・判断時期(いつ)	毎年3月
	検証エビデンス	教育学研究科委員会議事録
前回の概票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2018年3月) <input type="checkbox"/>2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)
検証プロセス	検証方法(どのように)	大学院問題検討委員会での検討を経て、学部長室会での協議の後、随時教育学研究科委員会において決裁・承認。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 20px;"> <div style="margin-right: 5px;">→</div> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/>その他() </div>
	判断根拠	研究科委員会議事録
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()	

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日:2019年2月22日

責任者	教育学研究科委員長	作成部局	教育学研究科
-----	-----------	------	--------

A-4	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー;CP) 教育学研究科では、以上の教育目的を達成するため、乳幼児教育研究領域、共生教育研究領域ともに次のような方針でカリキュラムを編成し、実施している。 前期課程 乳幼児教育研究領域、共生教育研究領域は、ともにそれぞれの目的に応じたカリキュラム編成を行っている。各領域には「研究者養成コース」と「高度教育コース」が設けられ、同一領域内での開設科目群から、コースの目的に応じて履修すべき科目の選定を行っている。各領域の開設科目群は、研究基礎科目、専門領域科目、フィールドワーク科目、研究演習から構成され、研究者養成の基礎となる科目や教員に求められる高度な専門性を培う科目を配置している。 研究基礎科目、専門領域科目には、教育学を体系的に学ぶことができるように科目が配置されている。各研究領域には、単独で開講されている科目に加え、包摂的な学びを可能とするために共通開設科目を設けている。フィールドワーク科目では、乳幼児教育や初等・中等教育に関連する現場等での実践研究に取り組み、理論と実践の往還を重視している。研究演習においては自らの研究を論理的に展開できる学問的な能力の育成を高める指導・助言が行われ、修士論文の作成を最終目標としている。 「研究者養成コース」「高度教育コース」ともに、修士学位取得に必要な単位数は32単位であり、コースごとに必修科目が定められている。研究者養成コースにおいては、5年間の博士課程を見据えたコースワークに基づき研究基礎科目を中心に12単位の必修科目が定められている。「高度教育コース」においては、前期課程の2年間で教員に求められる高度な専門性を幅広く学ぶことができるよう研究基礎科目2単位およびフィールド科目2単位以外は、すべて選択科目である。 後期課程 コースワークとして教育学特殊講義が、リサーチワークとしての研究演習が設けられている。教育学特殊講義においては、様々な領域への学びと探究を促すコースワークが行われる。研究演習においては、学位論文提出までの間、指導教員を中心とした指導・助言など、博士学位を取得するためのきめ細やかな指導が行われる。	変更の有無 <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
-----	--	---

A-4. 教育課程の編成・実施方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	教育課程の編成・実施方針は、A-2「めざす学生像」、「学位授与方針」、A-5「学生の受け入れ方針」と整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	教育課程の編成・実施方針は、A-3「教育研究目標」の達成に向けて相応しい内容となっているか、表現は適切か。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	教育課程の編成・実施方針は、教育課程の編成や、教育内容、教育方法等に関する考え方を明確に示しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学位授与方針の内容を実現するために、教育課程の編成・実施方針は適切な内容となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認5】	教育課程の編成・実施方針は周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	教育学研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き(どこで)	大学院問題検討委員会での検討を経て、学部長室会での協議の後、随時教育学研究科委員会において決裁。
	決定・判断時期(いつ)	毎年3月
	検証エビデンス	教育学研究科委員会議事録
前回の検票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2018年3月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法(どのように)	大学院問題検討委員会での検討を経て、学部長室会での協議の後、随時教育学研究科委員会において決裁・承認。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。
	判断根拠	研究科委員会議事録 <input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他()
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()	

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ～検証状況の確認～

提出日:2019年2月22日

責任者	教育学研究科委員長	作成部局	教育学研究科
-----	-----------	------	--------

A-5

学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー;AP)	変更の有無
<p>前期課程 研究者養成コース 1. 保育学・教育学領域における研究者をめざす者。 2. 保育学・教育学領域における学部学修程度の専門知識を獲得し、日本語の論理的文章表現能力を有する者。 3. 研究活動に必要となる保育学・教育学領域における英語文献読解のための基礎的能力を有する者。 4. 関西学院のキリスト教主義に基づく教育理念と本研究科の教育研究上の目的に共感する者。</p> <p>高度教育コース 1. 研究マインドをもった高度な保育・学校教育の実践者をめざす者。 2. 保育学・教育学領域における学部学修程度の専門知識を獲得し、日本語の論理的文章表現能力を有する者。 3. 保育・教育現場において奉仕的なリーダーシップを発揮することを自己の使命であると自覚し、学問を通じてさらなる研鑽を積みたい者。 4. 関西学院のキリスト教主義に基づく教育理念と本研究科の教育研究上の目的に共感する者。</p> <p>後期課程 研究者養成コース 1. 保育学・教育学領域における修士号を有し、研究者として自立して、さらなる研究活動を自ら推進する能力を有する者。 2. 保育学・教育学領域における修士課程修了程度の専門知識を獲得し、優れた日本語の論理的文章表現能力を有する者。 3. 研究活動に必要となる保育学・教育学領域における英語文献読解のための優れた能力を有する者。 4. 関西学院のキリスト教主義に基づく教育理念と本研究科の教育研究上の目的に共感する者。</p>	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>

A-5. 学生の受け入れ方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	学生の受け入れ方針は、A-2「学位授与方針」、A-4「教育課程の編成・実施方針」と整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	学生の受け入れ方針は、理念・目的、教育研究目標を踏まえ、入学時に求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	学生の受け入れ方針と、実際の学生募集方法、入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学生の受け入れ方針は、周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	教育学研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き(どこで)	大学院問題検討委員会での検討を経て、学部長室会での協議の後、随時教育学研究科委員会において決裁・承認。
	決定・判断時期(いつ)	毎年3月
	検証エビデンス	教育学研究科委員会議事録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2018年3月)	<input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定: 年 月)
検証プロセス	検証方法(どのように)	大学院問題検討委員会での検討を経て、学部長室会での協議の後、随時教育学研究科委員会において決裁。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。
	判断根拠	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他()
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()	

2018年度 自己点検・評価【教育学研究科】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ～検証状況の確認～

提出日:2019年2月22日

責任者	教育学研究科委員長	作成部局	教育学研究科
-----	-----------	------	--------

A-6

学生支援に関する方針		変更の有無
	履修指導、奨学金応募、進路相談など学生の諸問題に対して事務室のそれぞれの部署で対応し、学生ができるだけ有意義な学生生活を過ごすことができるように支援する。また、学生が研究を推進して論文を完成させることができるように指導教員、事務室が協力して必要な助言や指導を行う。	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
修学支援	年度始めには事務室と教員が参加して履修指導および履修相談を行い、質問に応じたり助言やアドバイスを提供している。授業の欠席が続くような場合は、授業の担当者や指導教員等が、事情を聴いたり助言や忠告をしたりする。	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
生活支援	日本学生支援機構の奨学金だけでなく、学内外の各種奨学金を学生に紹介し、生活支援を必要とする学生が学業を続けることができるように支援する。また、学生を教学補佐として積極的に採用し、生活支援を行っている。	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
進路支援	学内のキャリアセンターが中心となって、学生の就職活動を支援している。必要に応じて指導教員が相談に応じてアドバイスをする。	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート
 ~検証状況の確認~

提出日:2019年2月22日

責任者	教育学研究科委員長	作成部局	教育学研究科
-----	-----------	------	--------

A-6. 学生支援に関する方針について、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	学生支援の方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえた内容になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	方針に沿って、修学支援、生活支援、進路支援のための仕組みや体制を整備し、適切に運用しているか。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <修学支援> ・留年者及び休・退学者に対しては、事務室や指導教員が面談を行い、事情や状況を把握して、助言や指導を行うことができるようにしている。 ・指導教員の了解のもとに、研究内容や進め方などについて指導教員以外の教員に相談したりアドバイスを受けたりすることが可能である。 ・殆どの授業の受講者数が2~3人以下であるため、一人ひとりの学生の能力に応じた教育を実施することができるようにしたい。 <障害支援> ・受講の困難さの申し出があったときは、拡大コピーの配布、席替えなどの策を講じるなど、支援の幅をさらに充実するようにしたい。 <生活支援> ・半数以上の学生が公的、あるいは学内の各種奨学金を受けている。また、積極的に教学補佐に採用するなど、生活支援の更なる充実に努めたい。 ・健康面、精神面等で問題を感じたときは、学内の保健室や学生相談室などを利用することができることを学生に周知させるようにしたい。 </div>	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	学生の進路支援は、入学者の傾向等の特性を踏まえながら、進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施の点から取り組んでいるか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、教職員で共有されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	教育学研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き(どこで)	大学院問題検討委員会での検討を経て、学部長室会での協議の後、随時教育学研究科委員会において決裁・承認。
	決定・判断時期(いつ)	毎年3月
	検証エビデンス	教育学研究科委員会議事録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2018年3月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定: 年 月)
検証プロセス	検証方法(どのように)	大学院問題検討委員会での検討を経て、学部長室会での協議の後、随時教育学研究科委員会において決裁。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。(検証後、評価専門委員の指摘を受け方針の文言を変更し、A票変更点記述シートを作成した。)
	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;"> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) </div> <div style="margin-right: 10px;"> <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画:) </div> <div> <input type="checkbox"/>その他() </div> </div>
判断根拠	研究科委員会議事録	
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()	

2018年度 自己点検・評価【教育学研究科】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日:2019年2月22日

責任者	教育学研究科委員長	作成部局	教育学研究科
-----	-----------	------	--------

A-7

教員像		変更の有無
<p>大学院指導教員は教育学研究科委員会の構成員であり、大学院において研究を指導する条件として次のように定めている。前期課程については、①修士の学位を有する者②原則として教授任用後1本以上の学術論文の刊行がある者、または准教授任用後、3本以上の学術論文の刊行がある者。後期課程については、①博士の学位(Ph.D)を有している者②博士課程前期課程指導教員任用後に単著の学術書等、優れた学術研究業績がある者③博士課程前期課程の研究演習を2年以上担当した者、以上①～③を全て満たした者のほかに、他大学においてすでに博士課程後期課程指導教員に任用されている者。</p> <p>以上の大学院教員の基準を満たすとともに、人格に優れ、自己の研究推進に熱心であるだけでなく、大学院生の育成に熱意をもって取り組む。現在1名の大学院生に対して1名の指導教員が担当しているが、研究テーマによっては複数の専門分野に関係していることがあり、そのような場合は分野の異なる教員が互いに協力し合って指導に当たることができるような教員関係、教員組織でありたい。</p>		<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>

無しの場合どのように設定するか?	責任主体・組織	
	設定方法	
	設定見込み時期	


教員組織の編制方針		変更の有無
<p>定年退職予定者の後任人事を視野に入れながら、将来構想との関連において、免許・資格課程の教員組織のみではなく、研究科全体の教員組織の適切性を検討する。</p>		<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>

A-7. 教員像、教員組織の編制方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認 チェック欄

【確認1】	教員像は、教員に求める能力・資質、教育に対する姿勢等を明確にしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	教員組織の編制方針は、組織的な教育を実施する上において、必要な役割分担や規模(人数)、教員の専門分野やスキル構成、責任体制、を明確にしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	教員像・教員組織の編制方針は教職員で共有されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	教育学研究科委員会(議長:研究科委員長)	
	検証手続き(どこで)	大学院問題検討委員会での検討を経て、学部長室会での協議の後、随時教育学研究科委員会において決裁・承認。	
	決定・判断時期(いつ)	毎年3月	
	検証エビデンス	教育学研究科委員会議事録	

前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2018年3月)	<input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)
-----------------------	--	--

検証プロセス	検証方法(どのように)	大学院問題検討委員会での検討を経て、学部長室会での協議の後、随時教育学研究科委員会において決裁。	
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。)
	判断根拠	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。	<input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他() 

周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規	<input type="checkbox"/> 履修心得	<input type="checkbox"/> 学院Webサイト	<input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等	<input type="checkbox"/> その他()
---------	--	-------------------------------	-----------------------------------	---	--------------------------------

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日：2019年2月22日

責任者	教育学研究科委員長	作成部局	教育学研究科
-----	-----------	------	--------

(ご参考)

＜評価専門委員会・第三者評価結果＞ 2017年12月22日公示

- ・ 昨年度まで策定されていなかった各方針が策定されたことは評価されます。(A)
- ・ 学生の支援方針は、今年度は、新たに記載されましたが、内容を拝見しますと、現状の説明になっています。「方針」にふさわしい表現に改められることが期待されます。(B)
- ・ 適切性の検証が実施されており、評価できます。(C)
- ・ 2018年3月に予定されている検証を確実に行うことが期待されます。
- ・ A-3教育研究目標の目標2と目標3のタイトルには、具体的な目標が記述されていません。その記述が求められます。(D)
- ・ 適切に見直しがなされています。(H)
- ・ 学生支援に関する方針を早急に設定する必要があります。
- ・ 未検証の項目について、適切に検証と改善が進められることを期待します。(I)

＜評価専門委員・所見記入欄＞

- ・ 適切に検証されています。(B)
- ・ 自明のことなので省略されたのですが、A-2のDPでは授与する学位の名称も記入したほうがよくありませんか。
- ・ A-2のDPの記述中に、A-1の理念、A-3の目標1にも記されている「解決に導く力」という要素が落とし込まれていないように思われますがいかがですか？(C)
- ・ 検証自体は設定された体制、プロセスに基づいてなされていますが、例えば教員組織の編制方針は現実としてどう取り組むかについての記述になっているので、研究科の状況からしてどういった組織がふさわしいかといったことについて今後検討され、方針に記されることが望まれます。(D)
- ・ 概ね適切な自己評価がなされており、評価できます。
- ・ A-5 APの前期課程、研究者養成コース1では後期課程への進学を目指す者と明記してあったほうがよいと思います。
- ・ A-6 学生支援に関する方針での進路支援について、学内キャリアセンターだけではなく教育学研究科独自の支援体制があったほうがよいと思います。例、前期課程、後期課程修了者からの進路に関するワークショップなど。(E)
- ・ 概ね適切な自己点検・評価が行われていると考えます。
- ・ 学生支援に関する方針について、昨年の結果に示されているように「現状」ではなく、「方針」となるようご検討ください。(G)
- ・ 各方針において適切性の検証体制が明確になっていることが評価できます。(H)

2018年度 自己点検・評価 【教育学研究科】

提出日：2019年3月6日

項目名	A-6 学生支援に関する方針
変更内容とその理由	<p><変更内容> (変更前) 学生ができるだけ有意義な学生生活を過ごすことができるように支援する。</p> <p>(変更後) 学生が有意義な学生生活を過ごすことができるように<u>支援の更なる充実を図る。</u></p> <p><変更理由> 評価専門委員の所見コメントを受け修正。</p>
項目名	A-6 学生支援に関する方針 修学支援
変更内容とその理由	<p><変更内容> (変更前) 年度始めには事務室と教員が参加して履修指導および履修相談を行い、質問に応じたり助言やアドバイスを提供している。授業の欠席が続くような場合は、授業の担当者や指導教員等が、事情を聴いたり助言や忠告をしたりする</p> <p>(変更後) 年度始めには事務室と教員が参加して履修指導および履修相談を行い、質問に応じたり助言やアドバイスを提供したりする。授業の欠席が続くような場合は、授業の担当者や指導教員等が事情を聴いて<u>相談に応じたり、アドバイスや忠告をしたりする。</u></p> <p><変更理由> 評価専門委員の所見コメントを受け修正。</p>
項目名	A-6 学生支援に関する方針 生活支援
変更内容とその理由	<p><変更内容> (変更前) 日本学生支援機構の奨学金だけでなく、学内外の各種奨学金を学生に紹介し、生活支援を必要とする学生が学業を続けることができるように支援する。また、学生を教学補佐として積極的に採用し、生活支援を行っている。</p> <p>(変更後) 日本学生支援機構の奨学金だけでなく、学内外の各種奨学金を学生に紹介し、生活支援を必要とする学生が学業を続けることができるように支援する。また、学生を教学補佐として積極的に採用し、<u>生活支援を行う。</u></p> <p><変更理由> 評価専門委員の所見コメントを受け修正。</p>

2018年度 自己点検・評価 【教育学研究科】

項目名	A-6 学生支援に関する方針 進路支援
変更内容とその理由	<p><変更内容> (変更前) 学内のキャリアセンターが中心となって、学生の就職活動を支援している。必要に応じて指導教員が相談に応じてアドバイスをする。</p> <p>(変更後) 学内のキャリアセンターが中心となって、学生の就職活動を支援している。必要に応じて指導教員が相談に応じてアドバイスをする。<u>また、教員間で情報を互いに共有し、学生への進路支援の充実を図る。</u></p> <p><変更理由> 進路支援の例示(情報共有)を記載するため 評価専門委員の所見コメントを受け修正。</p>
項目名	
変更内容とその理由	
項目名	
変更内容とその理由	